

編集 発行 愛媛資料ネット（芸予地震被災資料救出ネットワーク 愛媛）
〒790-8577 松山市文京町3 愛媛大学法文学部寺内研究室気付
TEL 089-927-9317 Eメール terauchi@LL.chime-u.ac.jp 郵便振替 01690-8-5497

『今治市朝倉・満願寺資料目録』について

永井 紀之

金毘羅山満願寺は今治市朝倉下（旧越智郡朝倉村下）に位置し、天平6年（734）道慈律師開創と伝えられる。開創時の本尊は薬師如来であるが、慶長元年（1596）に金毘羅大権現を勧請し、近世の金毘羅信仰の広がりを受けて、広大な境内を持つに至った。明治初頭の神仏分離を免れ、現在も神仏混交を維持していることで知られる。初詣には近在より多数の参拝者が訪れる。

満願寺資料は、金毘羅山満願寺に伝来する書籍・棟札・古文書等の資料と井門家文書からなる。前者は、長く満願寺の蔵に収められていたが、昭和47年（1972）の集中豪雨で蔵が傷んだために別棟に移されていた。平成13年（2001）、しまなみ水軍浪漫のみち文化財調査員・愛媛県近代化遺産調査員の大成経凡氏が調査で満願寺を訪れたことが契機となり、同年より「愛媛資料ネット」が調査・整理を行うこととなった。

満願寺に伝来する資料は、これまで関係者以外には知られておらず、本格的な調査が行われたのは今回が初めてである。豊臣秀吉の四国平定の過程で全山が焼失したこともあって、それ以前に遡るものはないが、棟札は満願寺再建以来の堂宇建立にかかわる情報を伝えており、近世の寺社建築に関する貴重な資料である。また、古文書と合わせて近世の満願寺興隆を明らかにする上でも重要である。

今回目録に収録した書籍類は総数1041点という膨大なもので、発刊年代は寛永初期から明治中期に及んでいる。多くの書籍に「満願寺什物」として整理番

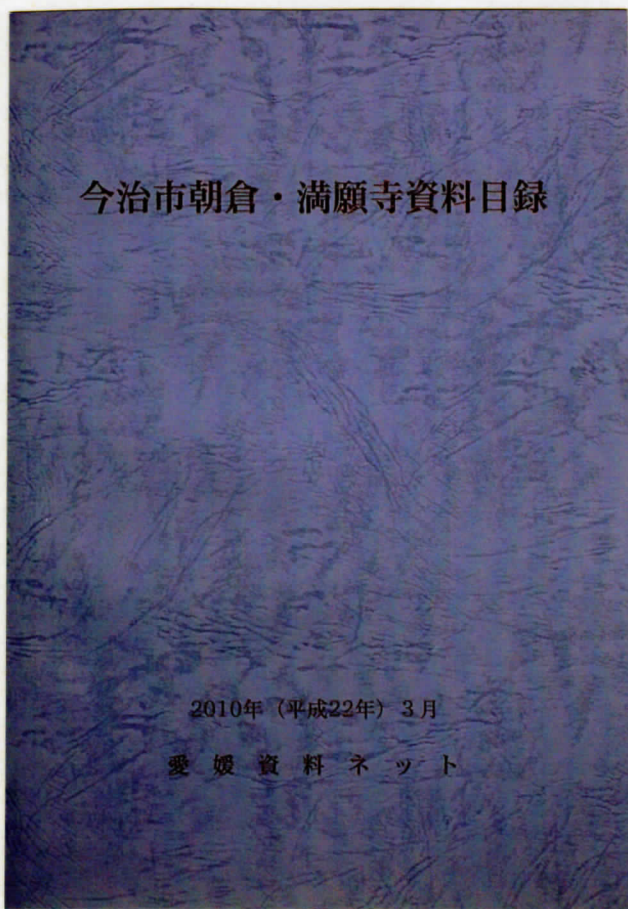
号が付されており、系統的に管理されていたことがわかる。他にも「伊予国府中満願寺蔵本」の朱印が押されたものがあり、満願寺の知的財産として書籍が集積されてきたことがうかがえる。また、無量寺・泰山寺・南光坊といった近在の寺院名が付されたもの、おそらくは今治藩藩学を指す「克明館蔵書」の朱印が付されたものもあり、地域の知的ネットワークの存在も想定できる。書籍の分野は、仏教関係が多数を占めることは言うまでもないが、四書五経など儒教関係も多い。また、漢詩・和歌・俳諧などの詩歌や歴史関係も含まれている。満願寺の歴代住持や修行僧の教養の幅がうかがえて興味深い。なお、書籍からは角筆文献も多く見つかっている。

井門家文書は、旧朝倉下村（現今治市朝倉下）庄屋・戸長を務めた井門家旧蔵の古文書である。井門家旧宅を取り壊した際に廃棄されかかったところを、先代の井門家当主と旧知であった満願寺住職星野敬昌氏が気付き、井門家より寄贈を受けた。すでに「愛媛資料ネット」が上の作業に入っていたこともあり、井門家文書についても調査・整理を担当することになった。

井門家文書も今回の調査で初めて確認されたものである。井門家が庄屋・戸長を務めた旧朝倉下村を中心に、近在地域に関する史料からなり、総数は442点である。最も古いものは元禄期の「越智郡新田改帳」、次いで享保期の「越智郡下村御田畑坪水帳」「越智郡下村御田畑地租帳」があり、土地関係の基本資料として長く保管されてきたことがうかがえる。大半は幕末期から明治中期の村政や年貢関係資料である。ここでは、村明細帳や御用日記の他、幾つかの一件書類が注目される。同時期の朝倉の資料として、これまで無量寺文書が知られていたが、多くは旧朝倉上村にかかわるものであっただけに、当時の朝倉を知る上で貴重な資料が加わったと言える。他に、大正期の井門家の葬儀に関わる資料も含まれている。

ところで、筆者は満願寺の地元朝倉に生まれ育ち、現在も居住している。満願寺には子供の頃から幾度となく縁日や初詣の参拝し、露店で駄菓子をかたり型抜きに挑戦することが何より楽しみだった。また、満願寺は小学校の写生大会の会場であり、中学校の部活動のトレーニング場でもあった。高校時代には史学部に属していたので、星野氏にお話を伺ったこともある。そんな私にとって、満願寺の資料調査を行うことは願ってもないことであった。平成13年11月より平成22年（2010）2月まで年1～2回ずつ計12回に及んだ調査には、ほ

とんど参加させていただいた。私は専ら井門家文書を担当したが、果たして文書に出てくる地名の多くは、小さい頃より馴染みのあるもので、身近な歴史を毎回体感することができた。遠方よりかけつける大学の先生方や大学生に混じって、地元の史談会の方々の参加があることもうれしかった。地域の歴史を地域の人々とともに学ぶ大切さが言われることが多いが、身近な方々と一緒に文書に触れる機会を得たことは幸いであった。また、御住職をはじめ満願寺の皆様には毎回食事のお世話や境内の案内をいただくなど、格別のご高配をいただいた。今後は、この資料目録を活用して、地域の歴史を明らかにしていくことが求められるが、筆者も少しでもこれに貢献し、これまでお世話になった方々に報いることができると考えている。



調査・整理活動、その他

◆3月末に『今治市朝倉・満願寺資料目録』を刊行しましたが、その内容や意義について永井紀之氏に文章を寄せていただきました。満願寺資料の調査・整理には、大学教員・学生のみならず、地域の史談会会員、高校教員・生徒などさまざまな方々に参加していただきました。また、満願寺御住職にはいつも御協力いただきました。今回この目録を刊行することができたのはこうした方々の御努力・御協力の賜物と感謝しております。

◆10月に第8回歴史懇話会を実施しました。今回は一般市民の方々と学生が一緒になって襖の下貼り文書剥がし作業の方法を学びました。今後も継続して実施する予定ですので、たくさんの方の参加をお待ちしています。

◆昨年度の愛媛資料ネットの活動には、愛媛大学法文学部学部長裁量経費、科学研究費補助金（基盤研究(s)、研究課題名 大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築、研究代表者・奥村弘）が使用されています。

愛媛資料ネット活動日誌

- ・10月22日
愛媛大学でふすまの解体作業（5名）
- ・10月24日
愛媛大学で第8回歴史懇話会（18名）
- ・12月12日
愛媛大学でふすまの下貼り文書はがし作業（7名）
- ・2月7日
旧朝倉村満願寺で資料調査（4名）